

放送大学 北海道同窓会会報

第 27 号

発行 放送大学北海道同窓会
発行責任者 宮崎 新吾
編集 広報担当
発行日 2015 年 11 月 19 日(木)
URL: <http://hhdoso.sakura.ne.jp>

会員数 221 名 (2015 年 9 月 30 日現在)

「放送大学同窓会連合会 第 18 回通常総会&シンポジウム」に出席して

放送大学北海道同窓会
会長 宮崎 新吾



5 月 30 日・31 日の両日千葉県の幕張国際研修センターにおいて行われた、「放送大学同窓会連合会 第 18 回通常総会&シンポジウム」についてご報告させていただきたいと思ひます。

この放送大学同窓会連合会は、全国にある放送大学の同窓会の連合会組織で、年一回総会を開催して、先進的な取り組みをしている同窓会の活動を紹介したり、また、運営方法などについて意見交換をしたりする場となっており、同窓会活動を行う上で貴重な情報収集源となっております。

5 月 30 日は、13:00 から第 1 部として「第 18 回通常総会」が行われました。冒頭、矢野会長代行による「開会の辞」に続いて、「学歌」を参加者全員で声高らかに合唱しました。その後、議長・書記が選出され、議事は、①平成 26 (2014) 年度活動報告、②同決算報告及び監査報告、③平成 27 (2015) 年度活動方針及び活動計画(案)、④同予算(案)、⑤役員選任(案)がそれぞれ示され、承認されました。

⑤の新役員は、新会長として矢野正義氏(茨城同窓会)、新副会長として津野和子氏(京都同窓会)がそれぞれ選任され、挨拶をしました。

15:00 からは、第 2 部として「創立 25 周年記念シンポジウム」が行われました。『テーマ：生涯学習・同窓会と学友会(学生会)との共存共栄』と題して、岡部学長の基調講演が行われ、その中で「通学制の大学は、学生である期間に限られて 4 年程度短く、卒業後は学校とのつながりは基本的になく、在校生でつくられる「学友会」と「同窓会」は全く違うものとなっている。それに対し放送大学は、生涯学習の場であるため在学期間が長く、またリピーターも多く卒業生と在校生が入り交ざった学生の構成となっている。そのような就学形態をとる放送大学においては、「同窓会」と「学友会」を分けて組織することができるのではないか」という内容の講演がなされました。事例として埼玉同窓会及び島根同窓会の活動が紹介されました。

その後のディスカッションでは、各地の同窓会から質問などが出ていましたが、北海道同窓会からは、北海道における「学友会」の位置づけなどについて質問し、学長から説明をいただきました。

その後、17:15 からは、「祝賀懇親会」が同研修センター内で開催され、北海道同窓会として、岡部学長、矢野新会長に挨拶を行い、その存在をしっかりと印象付けることができたと思っております。

翌5月31日は、9:00から「同窓会代表情報交換会」が行われました。全国各地の同窓会からの発表が行われ、様々な取り組みや悩みなどを聞くことができ、北海道同窓会からは、「同窓会トピック紹介」の中で研究発表会の進捗状況などを発表し、各同窓会からもとても良い取り組みであるとお褒めの言葉をいただきました。

同窓会は、学生と母校の支援をするものだとの考えのもと、私たちは普段の活動を行っていますが、その同窓会を支援してくれているのが同窓会連合会であり、また、その同窓会連合会を支援しているのが大学本部であり、学長・副学長をはじめとした学生支援室の方々であります。このような皆さんに支えられながら、北海道同窓会も母校である北海道学習センターと卒業生・在校生のお力添えをいただき、一段と活発に活動できるものであると考えております。

今後も、同窓会員のみなさまとともに、北海道学習センターの在校生及び学生サークルの活動の後ろ盾となりながら、母校の支援に取り組んでまいります。会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

第11回放送大学研究発表会開催

8月29日（土）に同会実行委員会の主催で、北海道学習センター6F大講義室において開催され、100数名の聴衆を集めました。

1. 記念講演

演題：「近代の終わるとき」－100億人地球に生きる－

講師：丹保 憲仁 氏

北海道総合研究機構理事長
(元北海道大学総長・元放送大学長)

今回の講演は、昨年第10回研究発表会における同題の記念講演の2回目となるものでした。前回は、産業革命に始まる近代300年は終焉を迎えようとしていると前置きして、人口は100億人以上増殖のピークとなると分析。その過密状況は、地球規模での大都市化と食糧・水・資源・エネルギー供給に困難をもたらすとの警鐘を内容とするものでした。



今回の講演はさらに深く踏み入って、都市化の進行と巨大農業との関連・人口増加の実態・エネルギーシステムと食糧の現況等のデータをもとに、人口問題の危機的状況の到来は近いと予測し、その困難な対策を具体的に提示する内容でした。ただし示されたテーマは、人類史を俯瞰して、近未来の人類のあり方を問う壮大なものであったために、2回の講演でも時間が足りないとの印象が残りました。

先生はこのあと2例の研究発表もお聞きになり、研究会終了後は関係者との記念撮影にも気安く応じていただきました。

2. 研究発表

発表1 テーマ 「イランのウラン濃縮施設へのサイバー攻撃」

～イランーロシア間におけるスタックスネット～

発表者 後藤 信介 氏

放送大学大学院 文化研究科 博士課程後期1年

発表は冒頭に「国は、情報通信技術の進展によってサイバー攻撃という課題に直面している」と指摘。次いで国は「情報通信技術が浸透している発電や交通、金融行政機関といったインフラへの攻撃に、対応しなければならない」との問題提起がされました。そして具体的にイランのウラン濃縮施設へのサイバー攻撃を例あげて、これに使われたマルウェア（悪意のあるソフトウェア）であるスタックスネットの特徴をかみ砕いて解説。さらにそのソフトは誰が作成したのか、それを特定できたと仮定しても裁くことも報復することもないという「帰属問題」の難しさについての言及もありました。

衝撃的でしかし新鮮なテーマで、研究会参加者も耳をすまして発表に聞き入っていました。後藤さんは、難関の放送大学の博士課程の試験を突破し、現在博士課程後期一年に在籍されています。さらに研究を深めそこでの成果を、この研究会で再び発表していただきたいとの期待をもちました。



発表2 テーマ 「ゲール文芸復興運動が復活祭蜂起に与えた影響」

発表者 沖野 茂夫氏

放送大学大学院 文化情報プログラム修了

約100年前に起きたアイルランドの独立のための武装闘争である Easter Rising（復活祭蜂起）と、19世紀後半に興った文芸復興運動との連関を論証しようとする研究です。文芸復興運動は具体的には、当時一部地域でしか使われなくなったアイルランド語と古のスポーツであるハーリング等の復活、及び伝承文学の採取と紹介を指すとの説明が

ありました。

そして、この運動がどのようなプロセスを辿って武力蜂起に結びついたのかを、戦闘参加者の証言記録をキー・ワードにして論考を進めたとのことでした。またアイルランドという、普段はあまり紹介されることのない国の歴史、とりわけイギリスによる700年以上にもわたる支配の歴史についても概略していました。

沖野さんは同窓会の幹事を引き受けていて、今後は研究発表会の運営の面での尽力もお願いしたいところです。



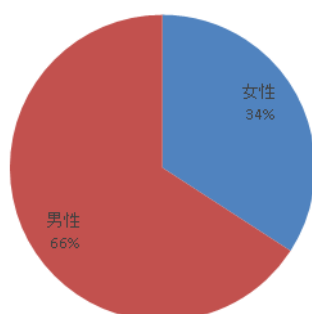


第 11 回 放送大学研究発表会 アンケート調査集計グラフ

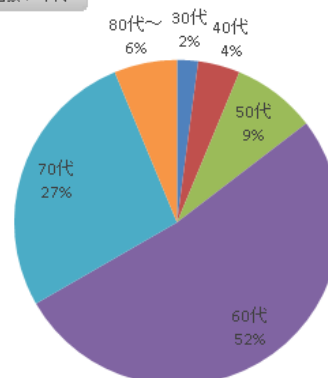
調査日：2015 年 8 月 29 日

有効回答者数 48 名

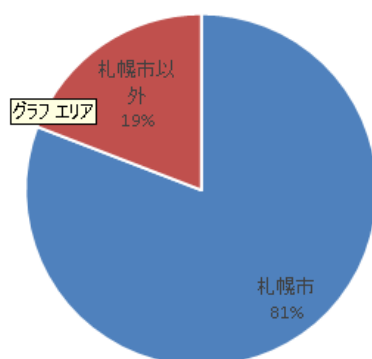
データの個数 / 性別



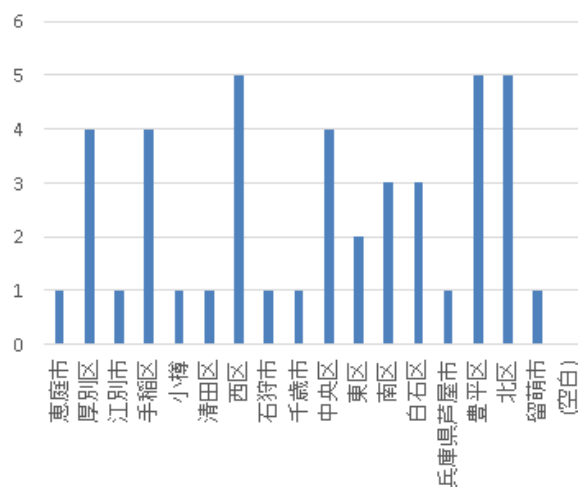
データの個数 / 年代



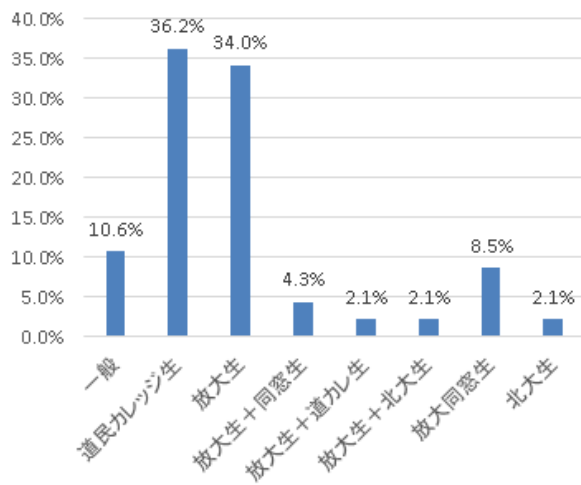
データの個数 / 居住地①



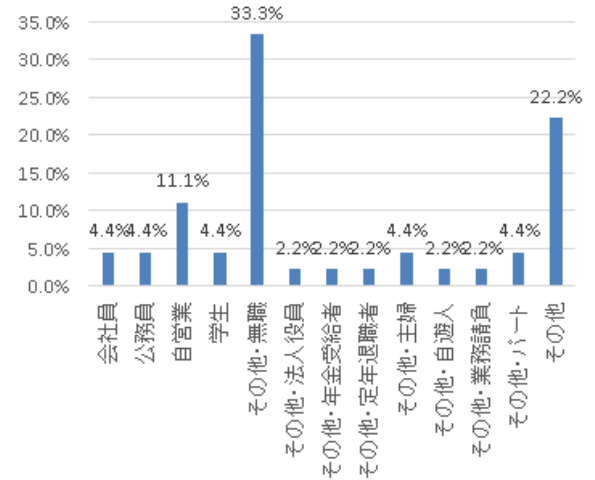
データの個数 / 居住地②



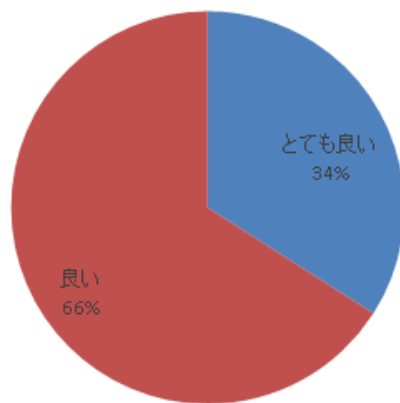
データの個数 / 所属



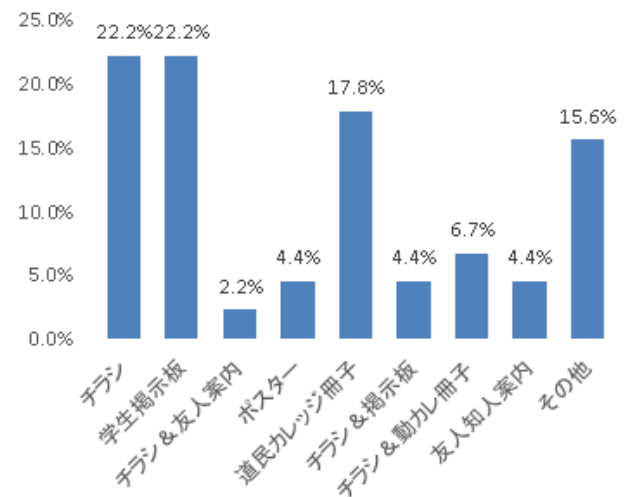
データの個数 / 職業



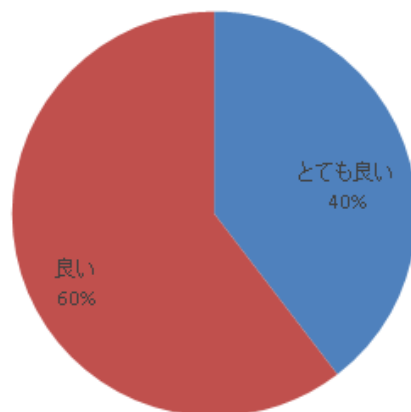
データの個数 / 開催時期



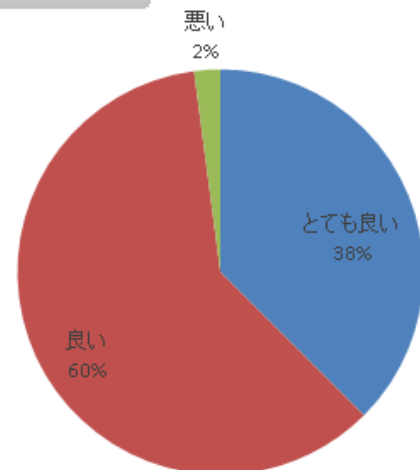
データの個数 / 情報



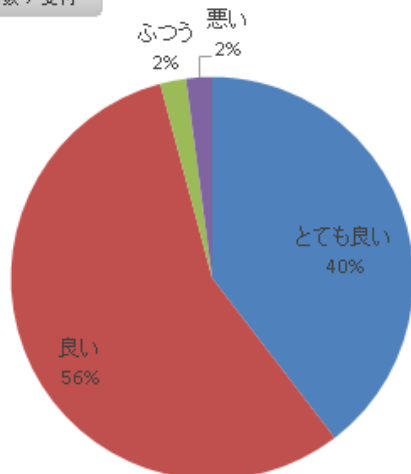
データの個数 / 開催曜日



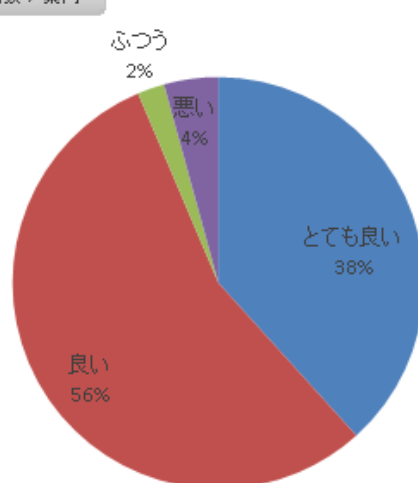
データの個数 / 開始時間



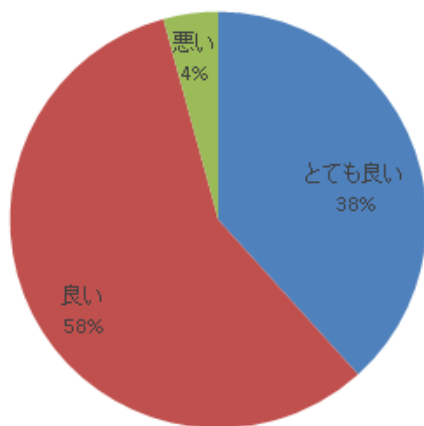
データの個数 / 受付



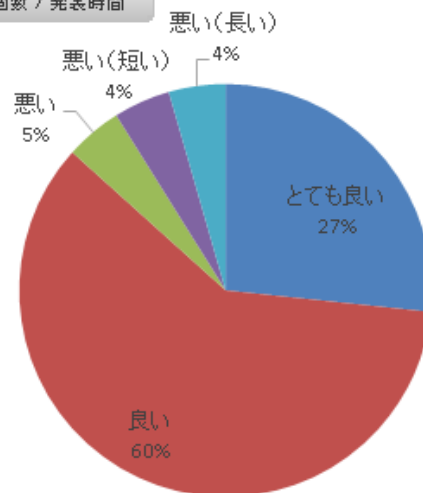
データの個数 / 案内



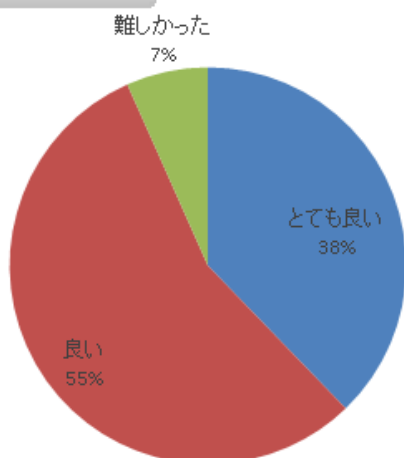
データの個数 / 進行



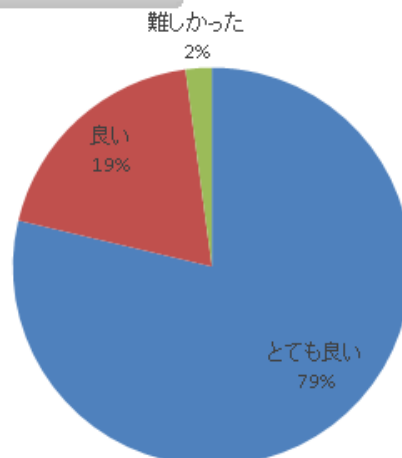
データの個数 / 発表時間



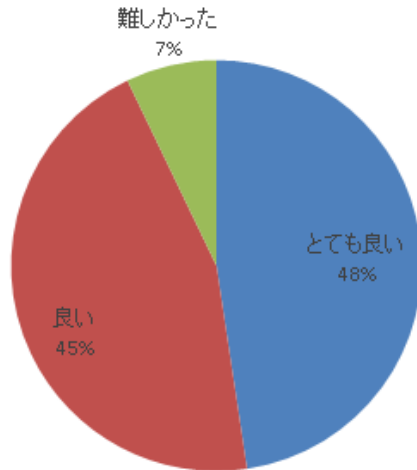
データの個数 / 資料の内容



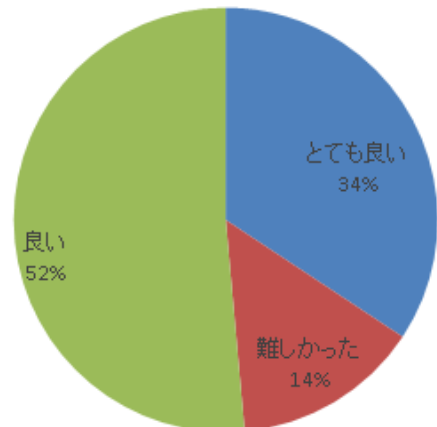
データの個数 / 記念講演内容



データの個数 / 発表1 内容



データの個数 / 発表2 内容



A) 今後、研究したいテーマがありますか？ 具体的にお書きください。

- イギリス現代史をもっと詳しく勉強したいと思っています。
- 来年は、IS（イスラム国）について研究された方の発表を聞きたい。
- 歯と体の働きの関係 歯並びは何故悪くなるのか 歯学全般について
- 道民カレッジ生です。研究テーマではありませんが、今、自分なりに考えてとらえていきたいと思っています。

B) 今回の研究発表会について、ご意見。ご感想などをお書きください。

- 全体に関すること
 - 高いレベルに驚きました。
 - 大変有意義な発表会でした。
 - 今回初めて研究発表に参加しました。非常にレベルが高く感心しました。
 - よく勉強されていると思います。私には“やる気”と“時間”がなく、できない。勉強している人は偉い。
 - 年々、発表者のレベルがあがっているように感じました。研究されている学生の生の声にふれることで自分も勉強になります。
 - 大内様の司会は素晴らしいです。明確で聴く者にとっては、研究の発表紹介がこのうえなく鮮明に映りました。ご苦労様でした。有難うございます。全体に乱文です、お許しを。
- 記念講演「近代の終わるとき」－100 億人地球に生きる－
 - 先生のお話をお聞きできて感動・感謝です。有難うございました。
 - 記念講演の丹保憲仁講師に今回の続きをお願いします。
 - 世界はすっかり春なのか、天が落ちてくるのか、異常な人の増殖による地球環境のダイナミズムと危機を感じました。領土、食料 or 戦争をひきおこす要国は増々高まるばかりです。厳しい現状をご教示戴きました。
 - 長年の研究の集大成として有意義なお話で勉強させていただきました。・日本の将来について気になる部分についても次回の講演を期待したいと思います。
 - 基調講演も研究発表も内容はとても良いのですが、みなさんが話したいことが多過ぎて、持ち時間より遅れてしまうが、聴いているほうも気になり、落ち着

いて聴いていられない。これについての改善方法はないだろうか。例えば基調講演だけ午前にして研究発表は午後とかに。このような時間にするといろいろなことに影響があるかもしれないし担当者も大変ですが、単なる感想です。

● 研究発表1「イランのウラン濃縮施設へのサイバー攻撃」

- 消化不良の感が否めない。何をどう伝えたかったのかが良くわかりませんでした。今後の研究テーマの発表だった？是非研究された後の発表をお聞きしたい。
- サイバー攻撃をマルウェア開発の連鎖の恐怖について研究され、スタークネットワークがシーメンス社製の特殊な製品（イランの遠心分離器の周波数）への攻撃とみられることまで分るといことが恐怖と感じ明日。国際政治の中で、大国の情報支配ということが身近にあることが年金問題の例でも感じ、また、マイナンバー制に対する不信・不安を抱いております。第四から「第五」の戦争なのですね。
- 難しいテーマでしたが、非常に分かりやすく素晴らしいプレゼンでした。
- 後藤氏の発表で今自分たちが使っているパソコンでサイバー攻撃を受けたならばと考えると身のすくむほど恐ろしさと感じます。ただ情報を収奪されて呆然としているのみなのか。

● 研究発表2「ゲール文芸復興運動が復活祭蜂起に与えた影響」

- 大変興味深い。レジメも良く勉強されたことが分かりました。切り口が多いかなど感じた。強調したいところを重点的に聞きたかった。
- いろいろ興味深い内容でした。もう少しじっくり勉強してみたいと思いました。参考文献も多く、ご努力の様子がみてとれました。
- 1916年での起こった復活祭義勇軍蜂起に、ゲール文芸復興運動が与えた批判の影響について研究され、蜂起が第一次大戦のイギリス徴兵制がアイルランドにも及びそうにあったこと、イエーツのゲール文芸復興運動と固有スポーツ再興がナショナリズムに喚起したこと。過去のイギリス統治に対する民族性や宗教、ジャガイモ不作の大飢饉などがあったことが理解できた。日本文化にも関連多いバーナード・ショウの活動など、詳細な調査の積み重ねに感心しています。スコットランドやウェールズの問題もあり関心が高まりました。
- アイルランドがイギリスから自由国をかちえるまでの苦労がよくわかりました。よく勉強されていますね。私もこの激動の1171~1922の歴史をひもとき、このことを詳しく知りたくなりました。



みんなで作る放送大学研究発表会

第 11 回放送大学研究発表会

実行委員長 宮崎 新吾

昨年、第 10 回を数えた放送大学研究発表会が更なる前進を遂げ、皆様のお力添えによって、今回第 11 回を迎えることができました。その新たな第一歩を踏み出すという素晴らしいときに、実行委員長という大役をさせていただき、本当にありがとうございました。この研究発表会を通じて、皆様が楽しみながらより賢明になれることが、私ども実行委員全員の最大喜びであります。

この研究発表会は、学友会と同窓会との融和をはかり、さらには、学習センター・学生サークル・同窓会が協働して、みんなで企画運営してきているもので、まさに「自分たちで作る」研究発表会であります。

今回の発表会では、まず、記念講演として、前回大好評を博しました、北海道総合研究機構理事長、また、元北海道大学総長、元放送大学長でいらっしゃいます、丹保憲仁先生に御講演をしていただきました。先生は、本当にご多忙な中、講演を快諾してくださり、「近代の終わるとき～人口百億人の世界～」と題しまして御講演頂きました。前回御講演の「続編」として位置づけられるものでありますが、はじめてお聞きになる方にもわかりやすく御講義いただきながら、前回より更に深化した内容となっており、出席者の皆様から前回に引き続き大好評をいただきました。

学生による研究発表は、1 題目として、放送大学大学院文化科学研究科博士後期課程 1 年の後藤信介さんによる、「イランーロシア間関係におけるスタックスネット」と題しまして、発表をしていただきました。2 題目は、放送大学大学院社会情報プログラムを修了されました沖野茂夫さんによる、「ゲール文芸復興運動が復活祭蜂起に与えた影響」と題しまして発表をしていただきました。両氏とも、大変な難関の放送大学大学院の学生であり、また、放送大学の中でも大変勉強熱心な学生として名をはせており、今回の発表も、学習センター所長をはじめ多くの方からの推薦を受けての発表であり、参加者の皆さんからも、さすが放送大学大学院の学生は素晴らしい、2 題とも専門性の高い難しい内容であったにもかかわらず、とても分かりやすいとの評価をいただきました。

最後に、この素晴らしい放送大学研究発表会の大成功を、すべての皆さんに感謝するとともに、これからもみんなで作る研究発表会をますます発展させていけるよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

次回開催予告

第 12 回放送大学研究発表会

平成 28 (2016) 年 4 月 9 日 土曜日午後 1 時から

今年度から 研究発表会実行委員会では一人でも多くの学生に研究発表の場を提供するために発表会を年 2 回開催します。次回の記念講演は北海道学習センター 筑和正格所長、発表者 2 名を予定しています。

「ゲール文芸復興運動が復活祭蜂起に与えた影響」

放送大学北海道同窓会 副会長

沖 野 茂 夫



(はじめに)

アイルランドがイギリスに併合されてから自由国となるまでの300年間に、独立のための武力闘争は6回繰り広げられたが、その最大のものが1916年の復活祭蜂起である。研究は「蜂起はなぜ起こったのか」との問いから始め、その要因として以下の3つ論説に注目した。

(1) 第一次大戦の勃発によってイギリス本国で徴兵制が施行され、さらにアイルランドにおいても実施されそうになったこと。

(2) ゲール文芸復興運動（アイルランド語の復活を目指した運動—ゲーリックリーグ、古典文学および地方に残る民話の収集と紹介—イエイツらの活動、アイルランド固有

のスポーツの再興と普及—GAA）がナショナリズムを喚起した。

(3) 自治法案におけるイギリス議会での凍結

これらのなかで特にゲール文芸復興運動に着目して、蜂起に与えた影響を考えてきた。さらに急進的ナショナリズムを武力闘争にまで突き進ませた主因として、ある特殊な育成環境のなかで青春を送った世代（Rising Generation）を取り上げ、この世代が生れた背景と彼らのとった急進的活動について考えた。

今後の研究についてはこの延長上で進めたいと考えているが、蜂起以降のアイルランド史学には視点の著しく異なる二つの歴史観があるので、まずこのことを視野に入れておきたい。

I アイルランドの歴史

- 432頃 聖パトリック来島 キリスト教の布教を始める
- 1171 ヘンリー2世のアイルランド統治(イギリス王室によるアイルランド支配)
- 1649 クロムウェル軍の侵攻 ドロハダなどでの大虐殺
- 1690 プロテスタントのオレンジ公ウィリアム3世軍と、カトリックのジェームス2世軍との天下分け目の戦いがポイン川でおこなわれ、プロテスタントが勝利
- 1798 ウルフ・トーン率いる「ユナイテッド・アイリッシュメン」による蜂起
- 1800 連合法 (Union Act) によるイギリスへの併合
- 1803 ロバート・エメットの蜂起
- 1845－49 ジャガイモの不作による大飢饉
- 1848 青年アイルランド党の蜂起
- 1867 アイルランド共和主義者同盟 (IRA) の蜂起、 マンチェスターの殉教
- 1886 グラッドストーン英首相による第一次「アイルランド自治法案 (Home Rule)」

の提出

- 1914 「自治法」の成立 第一次世界大戦の勃発。IRA は蜂起を決定する
- 1916 アイルランド義勇軍による「復活祭蜂起」 ピアースが「共和国樹立」を宣言
- 1922 イギリスとの条約により「アイルランド自由国」が誕生する 条約をめぐるアイルランド中が賛否で割れ、内戦が始まる（23年まで）

※下線は主な蜂起

II 復活祭 (Easter Rising) とは何か

1916年復活祭の翌日4月24日に、1,500人あまりのアイルランド義勇軍兵士がダブリン市内の要所六カ所を武力制圧する。義勇軍は中央郵便局 (GPO) を本部として占拠し蜂起の指導者パトリック・ピアースが「共和国宣言」を読み上げ、アイルランドの独立を宣言する。しかしイギリス軍は徐々に戦闘態勢を整え反撃に転じ、28日に市内の中心を流れるリフィー川に砲艦を入れ、義勇軍の占領箇所を砲撃した。

蜂起軍は圧倒的火砲に抗しきれず29日に降伏し、約一週間にわたる戦闘は収束する。英国鎮圧軍のジョン・マックスウェル将軍は、即決の軍事裁判で共和国宣言に署名した8人を含む蜂起の指導者16名に死刑を宣告する。銃殺刑は、裁判終了に続く5月2日からはすぐさま実行に移され、わずか10日間で終了する。

反骨の作家ジョージ・バーナード・ショウは、中央郵便局の戦闘で足を負傷したコノリーが最後の死刑囚として、椅子に縛られて銃殺された翌日、デイリー・ニュースに次のような投稿を寄せる。「捕縛されたり、投降したりしたものは戦時捕虜であり、これを容赦なく射殺したことは完全に間違っている。彼らはエメットやマンチェスターの殉教者と並ぶ地位を占めることになるだろう。いかなる者もこれを阻むことはできない」

これに続き文芸復興運動の旗手たちも、この出来事について批判の声を上げる。伝記作家ユーリック・オコナーは、その様子について次とおりに叙述している「詩人たちはドルイド教の神官が神託を求めるように、詩のなかでこの事件を精査し始めた。イエイツ、ジェイムス・スチーブンス、グレゴリー夫人、A・E、ポーリック・コラムたちが処刑に反対する立場から情熱的に書きまくった。同時に彼ら反乱の指導者たちの死が、アイルランド社会に与える影響を予感していた」

19世紀の「青年アイルランド党」の蜂起や、「アイルランド共和主義者同盟」の蜂起では、イギリスはその主謀者を処刑しなかった。しかし復活祭蜂起では、主導的役割を果たしたとは到底考えられない人物を含めて、16人をも処刑したことにアイルランド社会は驚き激怒した。

III 連合法 (Union Act) 下における2つのナショナリズム

1800年イギリスに併合されたアイルランドでは、アルスター（現在の北アイルランド）を除く26県で併合の解消を目指した運動が、1922年の自由国の成立まで続いた。そしてこの運動には、2つの異なる方向があった。ひとつは合憲的ナショナリズムを基盤とした自治獲得運動であり、他のひとつは完全独立を標榜し、この実現のためには武力行使も辞さないとする Fenianism である。

1 合憲的ナショナリズム - 2人のオルガナイザーの登場

合憲的ナショナリズムはダニエル・オコンネルの時代に最初の隆盛を迎え、次いでパ

ーネルそしてレドモンドに引き継がれる。この運動はアイルランド大衆を組織化し、これを背景としてイギリス政府からの譲歩を引き出すところに特徴があった。

オコンネルの戦略は、カトリック協会という組織を設立し、ここに神父を勧誘しさらに神父の教区のカトリック教徒を会員とすることから始まった。そしてこの数を背景に、永く社会的差別を受けていたカトリックの権利回復を果たすことをめざし、巧みな投票行動によって1829年「カトリック解放令」を獲得する。

さらにこの組織を母体に「英・アイ連合解消協会」を設立し、モンスター・ミーティングと呼ばれ、50万人から75万人が参加したとされる集会を全国的に展開し、そのクライマックスとなる大集会を、アイルランドがかつてバイキングを撃破した記念の地クローンターフで開催することを決める。

しかしカトリック解放令のときに内務大臣であり、このとき保守党の総裁であったロバート・ピールは「もうカトリックには妥協しない」「帝国の解体防ぐためなら何でもする」との決意を固め、開催直前に集会の禁止を命令する。オコンネルは、政府の命令に屈し集会の中止を決定する。この運動の挫折に対する屈辱と失望は永くアイルランド人の心に残ることになる。

パーネルの場合大衆の組織化は、「土地連盟」の会長として小作人の土地所有の推進を核に据えた。そして自治を要求しているほとんど組織や急進的分離主義の組織をもまとめ上げ、合法的な人民の党としての「アイルランド自治党」を設立し、イギリス政府に対峙した。ただし合憲的ナショナリズムの歴史を見ると、この運動がある重大な制約を抱えている事態が見えてくる。それはイギリスの保守党が、自国とアイルランドの関係あるいはアイルランドに課している制約を、政権党の時もあるいは議会の反対勢力の時も、変更する意志がなかったことである。

自由党を率いアイルランドに同情的な施策を打ち出した宰相グラッドストーンも、保守党の抵抗に自治法の上院通過を阻まれている。アイルランドの指導者には、大衆を組織する優れたオルガナイザーとしての能力と、イギリス政府からの妥協を引き出すタフなネゴシエーターとしての能力が必要とされた。さらにそれに加えて、運動の置かれている状況を的確に分析する知力が求められた。オコンネルとパーネルはその点で傑出した能力を発揮した。しかし後年合憲的ナショナリズム運動に、そうした人物が輩出されることはなかった。レドモンドはそのいずれの能力においても両者に及ばなかった。それがイースター蜂起の遠因ともなり、蜂起後の合憲的ナショナリズムの衰退にもつながる。

2 Fenianism

ウルフ・トーンに始まり青年アイルランド党、ロバート・エメット、フィニアンの反乱と続く武力闘争を是とする分離主義の系譜である。彼らの武力行動は、合憲的ナショナリズムの展開した広汎な大衆運動と比較して、影響力としては小さく散発的でアイルランドの併合解消にはほとんど寄与してこなかった。

ただし武力勢力が台頭したわずかな事例として、合憲的ナショナリズムが頓挫した時点で、例えばオコンネルのクローンターフの集会の中止や、パーネルの失脚によってアイルランド人が失望の最中にあった事などがそれにあたるが、「その失敗の反動として多少の支持を得た」との指摘がされる程度である。

修正主義歴史観の泰斗であるムーディーは1977年の講演のなかで「革命的民族運動はアイルランド共和主義同盟あるいはフィニアンの組織として設立されたが（中略）、アイルランドナショナリズムの主流は依然として、穏健で立憲的な自治運動にあり、これは

連合王国議会の制定法によって達成さるべきものだった」と語っている。

武力蜂起のリーダーの多くは、捉えられイギリス政府からは反逆者として処断されている。しかし処刑された指導者は、とりわけ殉教者としてアイルランド人の尊敬の対象となって復活している。これは、イギリスに対する武力抵抗の意志が、アイルランド人のなかには潜在していることを示している。

次のような指摘がある「ダニエル・オコンネルは青年期にはユナイテッド・アイリッシュメンのメンバーだったと信じられている。パーネルもフィニアンの誓いを立てていたといわれるが、それも充分にあり得ることだ」。つまり合憲的ナショナリズムの指導者達もある時期、もしくは心情としてはフィニアンであったが、現実的対応として合憲的ナショナリストの道を選んだとも考えられる。

さらにそれをアイルランド大衆の心情に敷衍していくと、イギリスの弾圧と支配に対する怨嗟が蓄積し、武力行使の容認へと転化し、復活祭の蜂起あるいは独立戦争への支持に繋がって行ったとの類推も成り立つ。

IV ゲール文芸復興運動の意味

1 運動の基底にあるもの

ゲーリック連盟の創始者ダグラス・ハイドは、アイルランド民族文芸協会での演説で次の趣旨の発言をしている「アイルランドはかつて最も学問的で文化的な民族であったが、今や、自分達の言語を棄てて英語を話したり、英語の本は読んでもゲール文化は何も知らないでいる。それなのに、自分達が常々急いで真似ているその国を嫌っている」。

この演説には2つ批判がある。アイルランド人がイギリスの文化・経済・言語のなかに埋没し、アイルランドがもっていた優れた文化と優雅な言語を失っている、そしてアイルランドの大衆がイギリスを嫌っているにもかかわらず、文化の埋没を是としている功利主義への批判である。

19世紀のアイルランドは、産業革命の余波を受けて工業化・近代化が著しく進行した時期であり、それはアイルランドでの文化面でのイギリス化の進行も意味した。これに当時の知識層を形成していたアングロ・アイリッシュのプロテスタントは、アイルランド固有の文化の喪失に猛烈な危機感を抱いてその復興に着手する。

アイルランド文学という分野での復興は、イエイツらの英雄伝承の発掘やナショナル・ドラマ上演であり、言語ではゲール語の復活を目指したゲール語連盟の設立であり、スポーツの面ではGAAの創設であった。ただし、文学の復興はあくまでもプロテスタントの作家たちの間の小世界のなかでの展開であり、それが一般特に若者に流布していくためには、言語同盟やGAAの存在が必要だった。

2 ゲール語連盟とGAA（アイルランド体育協会）

ゲール語連盟は、ダグラス・ハイドがアイルランド語の雅趣ある響きに魅力を感じて、その復興をめざし組織した団体で、発足から13年目の1903年にはすでに三千もの支部が出来上がっていた。しかし運営の実態は言語の普及という当初の目的を離れて、次第に政治的色彩を帯びてくる。

純粋にアイルランド語の復活を希求していたハイドは、同盟の運営を次第に秘密政治組織IRBが牛耳る様を目の当たりにして連盟を去る。しかしその後も、多数の参加者を集めた同盟には膨大な運営費が積みあがり、それは言語の普及、歴史授業の開催という本来目的のほかにも、ダンス教室、演劇サークルの発表会、映画の鑑賞会などの様々

な文化活動に充当された。

なかでも人気を集めたのは、語学講座の終わったあとのアイリッシュ・ダンスのパーティーだった。こうした一連の活動が、1889年のユナイテッド・アイリッシュメン蜂起の百年記念行事の開催、ボーア戦争反対運動、ヴィクトリア女王のダブリン訪問反対という政治運動に繋がって行く。

GAAはカトリック教会との結びつきが強く、その教区がひとつの支部を構成し、司祭が支部長を兼ねることが一般的であった。したがって反国教会の性格を強くもち、また政治的でもあった。協会が所管する競技は、ゲーリック・フットボールとハーリングというアイルランド固有の競技で、特徴的な規則としてBANと呼ばれる厳格な禁止行為を定めていた。

それは、会員がラグビーやサッカー、クリケットなどのイギリス発祥のスポーツを楽しむことは勿論、観戦することさえ許さなかった。BANの規定に抵触したものはただちに除名された。アイルランドでしか行われていないスポーツを楽しむ、プレー終了後は仲間とアイルランドの将来を語る。そうしたクラブライフすべてが、反イギリス精神とナショナリズムの醸成を意味した。この組織は、世界で最も成功したアマチュアスポーツの団体として、今日においてもアイルランド社会のなかで、権威ある存在としてそして政治的な存在としても大きな位置を占めている。

IV カトリック教会とナショナリズム運動

イギリスとカトリック教徒との関係は一方的な関係にあった。それは支配者と被支配者であり、強者と弱者であり、差別者と被差別者であった。しかしイギリス政府とカトリック教会にはこれとは異なる関係があった。もちろんクロムエルに代表される信徒の虐殺と土地の収奪による恨みや異教徒刑罰法、10分の1税といった差別は教会にとっても怒りの対象ではあったが、両者には暗黙の了解も存在していた。

教会は暴力的革命運動には断固反対しそれを排斥する行動をとる、それと引き換えにカトリック大衆の教育は教会が担うという暗黙の取引についての了解である。暴力革命の排除はIRB組織の切り崩しとしてあらわれ、その弱体化に大いに寄与した。

教育面での支配は、それよりも重く長くアイルランド社会に影響を与えた。アイルランドの大衆が接する知識人は、カトリックの神父に限られ、その教えに盲目的に追従していた。神父の教えは究極的には個人主義と民主主義の否定であり、具体的な考えは自由国成立後から50年代まで続いた検閲制度に端的に現れている。

検閲の厳しさをポール・プランシャードは次の方ように記述している「検閲委員会の神父が『外国の墮落の中心地』からやって来る卑猥な文学の洪水という『脅威』から、共和国の全国民を保護しなければならない」との観点から検閲を実施し、1953年までに4,057冊の本と376冊の定期刊行物を出版禁止にした。この中にはジョイスの『ユリシーズ』やミッチェルの『風と共に去りぬ』も含まれていた。

こうしたスタンスから、カトリック教会の志向するナショナリズムは必然的に合憲的ナショナリズムとならざるを得なかったのである。しかし視点を変えれば、大衆の精神世界の支配者としての地位は、体制変革の思想を排除するという面を大いに有しており、イギリスのアイルランド支配を補強するという側面を合わせ持っていた。つまり独立運動にとってはマイナス要因となった。合憲的ナショナリズムに不満を持つ若者が教会から離反し、知の習得と新しい行動様式を文芸復興運動に見出した要因も、ここに求められる。

V 蜂起の主体となった世代

1 国立公文書館の資料から

ダブリンにある国立公文書館の軍事部門 (Military Archives) には、復活祭蜂起に参加した当事者および関係者の、1, 773 件にのぼる証言記録 (Witness Statement) が残されている。この中には義勇軍に兵士として蜂起に参加し捕虜となり、やがて釈放されて再び独立運動に加わることになる、愛国心に満ちた若者の証言が多く含まれている。

この証言からは、彼らがいかに当時の政治状況とアイルランド大衆の功利主義に、失望していたかを読み取ることができる。同時に、精鋭的軍事組織であったはずの I R B の組織力と戦闘意欲に低下についても、手厳しい指弾がたくさん含まれている。

2010年にクイーンズ大学の Feaghal McGarry は *the Rising Ireland: Easter 1916* を著しているが、彼はこの本のなかで「ある特定の世代が、ある特定の経験をもち、それを行動に移すという研究も大切」と前置きして、蜂起の要因の探求には世代論研究も欠かせないと訴えている。

具体的には、パーネルの失脚以降に生まれた世代 (マックガリーはこれを Rising Generation と呼んでいるが) の育成過程における、特殊な体験が、彼らを堅固なナショナリストに仕上げ、蜂起の末端の兵士として育て上げたと分析している。これは説得力を持つ説明に思える。

2 逮捕者名簿から

イースター蜂起の中心は、アイルランド義勇軍の一部と市民軍である。その逮捕者の数と職業の分類の記録が残されている。それによると逮捕者の総数は1, 500人で、その中で女性は71名となっている。ここで注目したいのは、職業が記載されていない者の数が約半数ある。そしてその大半は少年兵であろうと推定される。

彼らはゲーリック・リーグやGAAの開催するダンスパーティー、演劇会、音楽会、映画の鑑賞会に参加し、そこでカトリック社会には無かった自由と解放感に浸った。またその中で武力闘争の必要を感じ取り、I R Bの指導者の軍事訓練を受けて義勇軍に参加した。これはMacgarryの説明と符合する。

I R Bは一時、1, 000人程度まで勢力を減らし、組織の存続さえ危ぶまれる状態であったが、トム・クラークらのオルグ活動によって、20世紀に入ってから徐々に若者の入会者を増やしていた。クラークが対象としたのはこうした集会に参加する若者だった。

クラークはアメリカの支援者に次のような手紙を送っている。「何百人もの若い仲間が、これまでナショナリスト運動に興味を持つことのできなかつた仲間が、芳しくない状況の中にあっても、この運動の渦中に身を置き『義勇軍の活動によって肝心なものに手を触れることができるようになった』と言う。

彼らがライフルの鉄の銃身を掴む、そしてアイルランド人の本能や男らしさが発揮できるようになるまで待とう」。I R Bはこうして勢力を取り戻し、義勇軍の幹部に主要なメンバーを送り込むまでになる。

また女性の逮捕者も含まれているがこれの大半は、夫人同盟のメンバーである。レドモンドのアイルランド国民党は、1912年に夫人参政権法案に反対して廃案とさせた。夫人同盟はこれに反発した婦人解放運動や、14年のダブリン・ストライキに参加した婦人労働者団体の運動が母体として設立された。つまり蜂起軍は女性を家庭に押しとどめようとするカトリック教会や、参政権に反対の合憲的ナショナリストに反発し、開放

的なアイルランドの文化を志向する一団でもあったのである。

Witness Statement のなかに、蜂起世代のパドレイグ・オケイリーによる次の証言がある「我々は通常もプロセスとして、まずゲーリック・フットボールもしくはハーリングをプレーすることから始めた。そして次のステップとしてゲール語連盟に進んだ。そこからシン・フェインの運動に加わり、最終的にはアイルランド義勇軍の兵士となった。娯楽はアイリッシュ・ダンスのタベやアビー座へ行くことであり、アイルランドの産品以外は買わないことを信条としていた。こうした経験を持つものにとっては、蜂起に参加することはごく自然なことだった」

この証言は蜂起世代が、文芸復興運動の強い刺激が動機となって義勇軍に参加し、蜂起軍として果敢に戦闘に挑んだことを示している。

VI イェイツの作品が蜂起の指導者に与えた影響—2つの作品を題材として

1 センセーショナルな作品

劇『キャスリン・ニ・フリーハン』は、ノルマン上陸時代のアイルランドの西部を背景に現世の幸福よりも祖国愛のために進んで犠牲となっている若者を描いている。この劇はただちに観客たちの心に結びつき、熱狂的に受け入れられる。劇のなかで、女王キャスリンはやつれた老婆の姿で人々の前に現れ「革命を起こして、四つの緑の平原すなわちアイルランドの国土をイングランドから取り返してくれ」と懇願する。

このメッセージは、時代の声として観客に感動を与える。蜂起祭蜂起で処刑されたトーマス・マクドナーやジョセフ・ブランケットの詩編にも、この作品の引用が見られる。ピアースも演説の中でたびたび作品の言葉を引用している。指導者にとって、その蜂起に到るまでの心的誘因として、この作品があったというのは確かだろう。

武力による独立に、最後まで慎重だった義勇軍総裁オーエン・マックニールは「救いを求めるニ・フリーハンなど存在しない」との警鐘を発して、蜂起を思いとどまらせようとしている。作家コナー・クルーズ・オブライエンにいたっては「この作品でイェイツは、狂信的愛国者の革命願望をかき立てた」とさえ言っている。

2 イェイツの詩人としてのスタンス

ただしイェイツは「詩人としてプロパガンダは書かない」と繰り返し言っている。イェイツにとっては、作品はあくまでも純粋に、文学的創造力によって組み上げられたものだったのだろう。イェイツの作品が政治的であるとの見方は、当時のアイルランド社会に横溢していたナショナリズムが、読み手に彼の作品を政治的に読み替えさせたと言えなくもない。

しかし、過去の反乱の殉教者への賛美や、傾倒する詩人で古きフィニアンであるオレアリに対する視座は、明らかにフィ I R B は一時ニアンの精神と気脈が通じている。能の世界に惹かれ、オカルトに興味を覚えるイェイツの文学的直観は、反逆者たちが持つ鋭利で、それでいて漂うような熱情に、呼応するのかもしれない。

ただし、彼は蜂起のはるか20年を経過した時点で書いた、詩編『人とこだま』のなかで次の言葉を残している。

私のあの劇に駆り立てられて
あの男たちは英国兵に撃たれたのか
Did that play of mine send out

Certain men the English shot ?

イエイツは政治的立場を鮮明にしていなかったが、穏健な方法による自治獲得を指向していた。しかし自治法の主な支持者であるアイルランドの中流階級を功利的として嫌い、詩人として革命家の純粋性に共感した。その純粋性の代償としての革命家の死に、自分が関与したとの呵責を感じていたようにも思える

Ⅶ 指導者たちが武力蜂起に求めた意義

蜂起を計画し主導した人物のなかで、特に中心的役割を果たしたのは「暫定共和国樹立宣言」に署名した7名であった。彼らは出自にも思想にも違いを持っていて、武力闘争の進め方にも微妙な違いを持っていた。しかし武器は旧式でしかも数量も足りていない状況で、さらに義勇軍の一部しか決起しない状況であっても、蜂起すべきという点では一致していた。

蜂起にたいするダブリン市民の罵声も恐らく予想していたに違いない。では何故蜂起に意義をみいだしたのか。テリー・イーグルトンは小説『聖人と学者の国』のなかで、コノリーは生き延びたという設定のもとで、彼に次のように語らせている「もし我々が成功するとすれば、第一に撃つことによってではなく撃たれることによってだろう。支配階級が理解できるのは勝利だけだ。彼らは敗北の力を過小評価している」

実際コノリーは蜂起軍の集合場所リバティ・ホールを出発するとき、友人に「我々は虐殺されにいくのだよ」と言ったと伝えられている。すでにこの時主導者たちは、過去の反乱の殉教者たちと同列に並びたいとの意思を固めていた。彼らはその気持ちを、死刑直前に残した書簡集 *Last Words* のなかで、文芸復興の作家たちが描く古代の英雄に重ね合わせて「殉教者として死にたい」と言い残している。

アイルランドの反逆者の間で、広く言い伝えられている言葉として「英国の危機は、アイルランドの好機」というものがある。生粋のフィニアンであるトーマス・クラークは、イギリス軍が大量の兵員を投入せざるを得なかったボーア戦争の時に、蜂起すべきだったという後悔の念を強く持っていた。そしてクラークをはじめとする指導者たちは、第一次大戦の終結が見えてきたこの時期が最後の「イギリスの危機」と捉えて、革命の先駆けになろうとしたのである。

Ⅷ 文化と政治をつなぐ回路

パーネルの死後の政治的空白を、埋めたものは何であったのか。修正主義歴史観の第二世代の位置する著名な歴史家フォスターは、その状況を次のように説明する「1891年から1916年の25年間を、政治的空白だと見る傾向がある。政治的エネルギーが、神秘的に機械的に文化的チャンネルに移行したということだ。それはイエイツの有名な言葉のなかで提示された考えであり、たくさんの後世の研究の碑文として使われている」。

しかし文学と言語とスポーツといった文芸復興運動が、政治にとって替わったとの説はそのまま受け取るわけにはいかない。政治と文化という異質な分野のものが、同じ位相で置換されるはずがないからである。そこには政治と文化を結ぶ、何らかの回路が存在したはずである。最後にその回路はなんであったのか、考えてみたい。

1 蜂起世代であるオコンナーの回想

ロジャー・ケースメントのケリーでの、武器弾薬の陸揚げに加わるはずだったオコンナーの回想は、その回路がいかなるものであるかの理解に、大きなヒントを与えてくれる。オコンナーはケリーでの作戦失敗のあと、ダブリンに急行するところであられ、キルメイナム監獄に収容される。その後、二つの収容所をへてフロンゴホの収容所に未決拘留されるがこの収容所の様子を次のように回想している。

「私たちは獄中生活の大半を、アイルランド語教室で過ごした。フロンゴホでは教室はいつも開かれていた。マイケル・リンチが教室の開講に最も熱心で、彼自身もそこで教えた。ここには、国や民族というものに対してしっかりした考え方を持たずに蜂起に参加して捕えられ、収容所に送られてきた若者がたくさんいた」と言い、次のように続けている。「フロンゴホはそのような若者にとって、すばらしい学校だった。アイルランド語の教育とわれわれの熱意や情熱が、彼らの受けてきた教育の内容を正した。彼らにはこれ以上の学校はなかった。民族の自由と古いアイルランドの伝統を人生の最高のものとする仲間に、彼らは完全に変わっていった。

愛国的な歌や朗読で毎日が終わった。若者たちは喜んでこれに加わった。彼らは家に帰ったら、すぐに戦いを続けようとの話や計画を毎日聞かされた。フロンゴホに来たたくさんのゴールウェーの若者たちは、無邪気な若者ばかりだったが、それぞれの心の底にフィニアニズムの種を抱いてここから出て行った。

フロンゴホの収容所ではやがて後に、マイケル・コリンズの下でブラック・アンド・タンと戦うことになる沢山の同志たちが見出され教育されたのだった」。

2 蜂起の失敗から独立まで

オコンナーと同じ蜂起世代のマイケル・リンチは、義勇軍での訓練ではトーマス・マクドナーを師とした。そしてフロンゴホでは自分が教師となり、キャンプに収容された若者にアイルランド語と民族の誇りと戦いの精神を教えた。

その心躍る様子を、この回想は伝えている。そしてこの若者を訓練する方法は、ゲール語同盟や g a a で行われた集会のなかで培われてきたものなのである。つまり教育と訓練によって、文化が政治行動に置換されたと言えよう。蜂起に参加し生き残った義勇兵は、さらに鍛えられてこの後のゲリラ戦の中核として育っていく。そしてマイケル・コリンズの指揮のもとで、イギリス軍のスパイの暗殺、連絡情報網づくり、警察の動きの監視などを展開して民衆のなかに深く入り込み、都市型ゲリラ戦を戦い抜くのである。

そして執拗なゲリラ戦に耐えかねて、イギリス首相ロイド・ジョージはついに 1922 年アイルランドに自由国の地位を認めることになる。

以上

【参考文献】

- T. W. ムーディ/F. X マーチン編著(1982)『アイルランドの風土と歴史』論創社
竹本 洋、本田三郎、市川 勇、堀越 智、松尾太郎、高橋 裕之(1981)『アイルランドナショナリズムの歴史的研究』、論創社
松尾太郎(1980)『アイルランド問題の史的構造』論創社
堀越 智(1985)『アイルランド イースタ蜂起 1916』論創社
日下隆平(1999)『イエイツとその周辺』大学出版協会
波多野裕造(1994)『物語アイルランドの歴史—欧州連合に賭ける妖精の国』、中公新書。
森ありさ(1999)『アイルランド独立運動史』論創社
アンソニー・D. スミス(1998)『ナショナリズムの生命力』高柳先男訳、晶水社

U・オコーナー(1997)『恐ろしい美が生まれているーアイルランド独立運動と殉教者たち』、波多野裕造訳、青土社。
 鈴木良平(2003)『アイルランド建国の英雄たちー1916年復活祭蜂起を中心に』、彩流社。
 三浦謙(1994)『炎の軌跡ージョナサン・スウィフトの生涯』、南雲堂。
 辻 昭三(2008)『イエイツ詩界逍遥』、英宝社
 島津彬郎(1993)『イエイツを読む』、研究社。
 金子光晴、尾島庄太郎(2000)『イエイツの詩を読む』、思想社
 高神信一(2005)『大英国帝国の中の「反乱」第二版ーアイルランドのフィニアンたち』、同文社。
 後藤浩子編(2009)『アイルランドの経験ー植民・ナショナリズム・国際統合』、法政大学比較経済研究所。
 風呂本武編(2009)『アイルランド・ケルト文化を学ぶ人のために』、世界思想社
 T・イーグルトン(1997)『表象のアイルランド』、鈴木聡訳、紀伊国屋書店
 池田浩子(2011)『イエイツとアイリッシュ・フォークロアの世界ー物語と歴史が交わる場所』、彩流社。
 R・キーレーン(2000)『図解アイルランドの歴史』、鈴木良平訳、彩流社
 尾島庄太郎・鈴木 弘(1977)『アイルランド文学史』、北星堂書店

R・F・Foster , *Modern Ireland 1600—1972* (London Penguin Group, 1988).
 Bureau of Military History Witness Statement
 Fearghal McGarry , *the Rising IRELAND:EASTER 1916* (Oxford 2010)
 Clair Wills , *DUBLIN 1916 THE SIEGE OF THE GPO* (Profile Books 2009)
 Michael Collins , *The Path to Freedom* (Mercier Press, 1996)
 Litton Helen , *Irish Rebellions 1798-1926; Illustrated History* (Wolfound Press. 1990)
 P. F. MacLochlainn ed., *Last Words : Letter and Statement of the Leaders excuted after the Rising at Easter 1916*, Dublin, 1971

第3回

放送大学東北・北海道ブロック交流会

同窓会交流会報告書

北海道同窓会 会長 宮崎新吾

実施日時 平成27年9月5日 9月6日

実施場所 弘前大学 コラボ弘大内 青森学習センター (9月5日第1部・第2部)
 ホテルナクアシティ弘前 (9月5日第3部)
 黒石市「こみせ通り」見学 (9月6日)

出席者 9月5日は一般公開の講演会形式

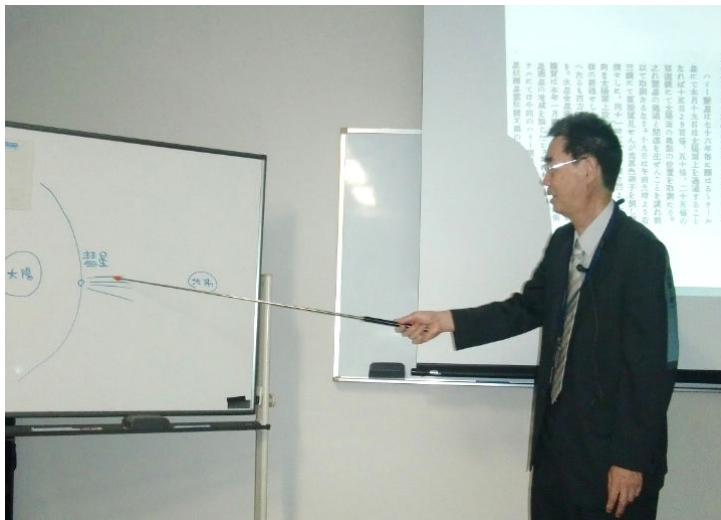
① 連合会本部 代表 矢野正義②京都同窓会 副会長津野和子③栃木同窓会 理事須藤國男

④ 北海道同窓会 会長 宮崎新吾・副会長 沖野茂夫⑥ 青森同窓会 会長 関川宏明・田澤 豊・稲垣輝紀・ 谷内義貴 他2名⑩秋田同窓会 会長 田口陽一⑪山形同窓会 幹事浅野みよ子・ 幹事 岡崎由美子・ 監事 石沢 清⑭ 宮城野会 会長 佐々木美枝子・副会長鎌形清司・ 事務局長 遊佐徳男・ 理事 安喰由幸

9月5日 第一部

- ・ はじめに、関川青森県同窓会会長から開会の挨拶があり、続いて、倉又センター長、同窓会連合会矢野会長、津野副会長、須藤理事からそれぞれ挨拶があった。

- ・ 次に、放送大学青森学習センター所長 倉又秀一先生より 公開講演会「青森県のアマチュア天文学の先駆者一戸直蔵と前原寅吉」について講演があった。明治時代、日本に天文学が始まったころの津軽藩出身の天文学者一戸直蔵と南部出身のアマチュア天文愛好家前原寅吉の紹介があった。両名の研究成果について講演していただき、特に前原寅吉が、太陽の前を横切るハレー彗星の撮影に成功したとされるが、アマチュアであるがゆえに公式な研究成果としては残っていないことが不思議に感じた。



9月5日 第二部

- ・ 30分ほどの休憩を挟んで、第二部の同窓会情報交換会が実施された。
- ・ 関川青森県同窓会会長から挨拶があり、その後同窓会連合会から報告があった。



- ・ ①連合会総会の報告で、学友会と同窓会の関係について話し合われたことについて報告があった。②平成27年度の予算がとおったことの報告及び助成金についての説明があった。申請する際の様式や記入上の注意などを確認した。③バッジの販売についてよろしくお願いいたします。
- ・ 次に、各県からの活動報告があった。
- ・ 初めに、関川青森県同窓会会長から活動報告があり、青森県の見どころや各種行事

の発表、それと同窓会での年間活動報告があった。

- ・ 2 番目は、北海道同窓会から、第 1 1 回研究発表会について報告した。パソコンで写真を掲示しながらの報告とした（写真を使用した報告は北海道のみ）。
- ・ 以下、各同窓会から活動報告があり、宮城野会、秋田同窓会、山形同窓会からそれぞれ発表した。秋田同窓会から発表のあったマスコミで主催している行事に協賛してブースを確保するなど興味深い活動報告があった。また、山形県同窓会から、会長逝去の報告があった。
- ・ 次回開催場所は秋田同窓会に決定した。
一昨年度の約束どおり、秋田同窓会は来年が学習センターの 2 0 周年に当たるのでそのときにあわせて交流会を実施したいとのことだったので開催場所とした。
- ・ また、須藤理事より全国で同窓会が設立されていない学習センターとして、依然として「岩手」と「福島」があり、「福島」はまもなく設立できそうな状態になっているが、「岩手」が難しいことになっていることを報告した。これに対して、青森同窓会に人的なつながりがあるそうなので、そのことも交流会で全ての同窓会が集う場とできることが期待されることとなった。
- ・ 各同窓会から盛んに質問などが飛び交い、記念写真を撮影して大変活況のうち終了時刻となった。



9 月 5 日 第三部

- ・ 会場をナクアシティ弘前に移し、公開講演会をしてくださった倉又先生をはじめ、他の同窓会メンバーなど、第一部・第二部に出席したメンバーのほとんどが参加しての懇親会を行った。

9 月 6 日

- ・ 翌朝、弘前市から黒石市に移動して、「こみせ通り」の見学が実施された。
- ・ 「こみせ通り」は、「日本の道百選」

にも選ばれた伝統的建造物が残る中町通りの「こみせ」のことをさし、藩政時代から今に残るアーケード状の通路のこと。現在もまとまった形で残されているのは、全国的にも類例がないといわれているものとのことで、北海道にはない日本の原風景を見ることができました。また、町の住民たちが自ら解説をしてくれることに驚きました。平成 1 7 年には「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されました。夏は暑い日差しを遮り、冬は吹雪や積雪から人を守り、軒を連ねていた旅籠や呉服屋、商家にとってはなくてはならないものでした。国の重要文化財「高橋家住宅」、造り酒屋、蔵などが並ぶ風景は、いにしえを彷彿とさせてくれます。



(弘前城宮繕のため、お城としては非常に珍しい曳家式で時間をかけて移動中。歴史的に大変貴重な瞬間に出合えた)

9月27日 平成27(2015)年前期の 学位記授与式がありました。

放送大学北海道学習センター(出席者 23 名)で執り行われました。苦難を乗り越えてはれて卒業証書を手にされた方、本当におめでとうございます。今学期の北海道学習センターから 60 名の学士と旭川サテライトスペース 9 名の学士が誕生致しました。



卒業を祝う会の様子

学生サークルうたの会から歌のプレゼント



卒業を祝う会 9月27日(日) 学位授与式の後、同窓会主催による「卒業を祝う会」が、15時30分から行われました。各テーブルには、紅白の饅頭と、お赤飯でお祝いして、オープニングは、「うたの会」サークルの「放送大学歌」、「道・放大生賛歌」「喜びの歌」で始まり、主催者の宮崎同窓会長が挨拶、筑和北海道学習センター所長・伊藤事務長の来賓挨拶があり、卒業生代表から北海道学習センターに図書寄贈目録が筑和所長に贈呈され、「いわう会」が始まりました。

卒業生代表昆野好子さんから筑和センター所長へ記念品贈呈





ご卒業された皆様から自己紹介の様子

遠藤久さん

2010(平成 22)年に 4 月に入学し、今学期卒業することができました。私にとって大学卒業は夢でした。大学進学の際には、兄弟も 5 人と多くて父が定年退職した年でもあったので、高校卒業後にすぐ仕事を始めました。そして定年退職後も母の認知障害などの家庭の事情で、すぐには入学できませんでした。本当に私にとっては、この大学に来ることは憧れでしたし、嬉しくて嬉しくて、生涯学習でよく言われるような「わくわく感」を抱いて大学に来たのを覚えています。入学後は、母の病状が進まないうちに卒業の姿を見せたいと思い、頑張りました。

先ほど、加藤栄さんとお話しさせていただいて、97 歳までどうやって勉強を続けていらっしゃるのかお訊ねしたところ、「無理をしないで、楽しんでやっている」とうかがい、加藤さんを見習って頑張りたいと思います。

通学に関しては、家族が協力してくれたので、とてもありがたかったです。行ってらっしゃいと背中を押してくれて、励ましてくれたので、通い続けることができ、卒業できました。

ちなみに、この「生きがい」、「学習」そのものが忘れられなくて、続けたくて、また来月から再入学し勉強を続けることになっています。放送大学は、私にとっての「居場所」の一つなのだと思います。これからもゆっくりのんびりと、そしてちょっと励みながら勉学を続けてゆきたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。





島田洋子さん

もう2度と卒業式に出ることはないなあと、これが最後だからと思いながら今日この卒業式に来ました…。でも、皆さんのお話をお聞きしていたら、3回目の卒業式などとおっしゃる方も多いので、それだったら私も来年4月からもう一度通ってみようかなあと思いました。

私は軽い動機で入学したのです。この大学は10年かかってもいいよと言われたので、自分なりにのんびりゆっくり学んでいたら、ちょうど10年目に卒業できますという案内が届き、今日ここにきました。

また来年の4月から頑張ろうと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

藤田直人さん



2013(平成25)年に編入し、今日この日を迎えることができました。放送大学に入ったきっかけは、「救いを求めて」ということです。入学前には北大で看護学を学んでいたのですが卒業できなかったのです。そこで放送大学で勉強を続けて、卒業研究は「健康寿命と保健機能の業務との関連」ということでいろいろ調べてみました。

結果としては、予防を重視している自治体ほど健康寿命が長いということが分かりました。副産物として、健康寿命の計算の仕方を論じてみたのですが、論文としては失敗だったかなと思いますが…失敗でした(笑)。もし進学できたら、健康寿命関係でリベンジしたいと思っています。

松下公紀さん

北広島市から来ました。最初に入学したのは2002(平成14)年で、途中、病気になったのですが回復し復学できました。転勤が多くて近所にも知り合いがいなかったのが、退職をきっかけに入学しました。そして入学後5年程で1回目の卒業をし、今回は3回目となります。ただし途中でコースの統合があったために2コースの卒業となってしまいました。

やっぱり考えてみたら、健康が第一ですね。健康を害しますと何もできません。入院してみてもつくづく感じました。ですからこれからは特に健康に留意して、また再入学して頑張ってください。



森川治郎さん常勤の仕事が一段落し、2006(平成18)年の4月に入学しました。10年のうち5年目に1回目の卒業式に出たのですが、その時に3コース卒業した方が表彰されていたので自分も頑張れるかと思って、2つ目へと進み、今回は3回目の卒業式でした。2つ目の「心理と教育コース」の時に、認定心理士の制度を知り、去年実験実習を済ませて、今年8月に認定心理士の資格を取ることができました。それも放送大学のおかげだと考えております。大変ありがとうございました。これからは勉強に励み、社会貢献をしてゆきたいと思っております。



また、洋蘭栽培が趣味で20年以上も蘭を育ててい

ます。蘭の展覧会に合わせて花を咲かせるのですが、花を咲かせるために、光もあてる、水もやる、ちゃんと見てあげている、温度も管理する、というふうに手をかけているのですが、なかなか咲いてくれないし、咲き始めてもなかなか良い色にならないのです。最初に教えてくださった先生に「花はあなたのために咲いているわけではない」といわれました。花は自分のために咲いているのです。私がうんと咲きなさい咲きなさいと言っても、花はなんも咲いてくれないんです。今週末の展覧会に向けてなかなか仕上がらなかったのですが、それが昨日あたりから急にピンクに色付き、綺麗に咲いてきました。機会があれば蘭展で見ただけであれば大変ありがたいと思います。今日はありがとうございました。

中根恵美子さん

2002(平成14)年に入学し、今回3コース目を卒業しました。途中で制度が変わりコースの合併がなされたために2コースしか卒業していないことになってしまいました。それで、ご褒美がもらえないということで少し不満なのですが…(笑)。入学のきっかけは、同僚に誘われて、当時は放送大学を良く知らずにNHKの大学だと誤解していたのですが。高校しか出ていなかったのも、大学の資格を取るために何度も挫折しそうになりながら、追試も受けながら、7年かかって、全科履修生を卒業しました。札幌に知り合いもいなくて卒業式も一人で来たのですが、式の後の「卒業を祝う会」で紅白饅頭とお赤飯で先輩方に祝っていただいたことがとても嬉しく感動し、涙が出ました。それで同窓会に入会しました。

私は単位を取ることに集中していたために深く勉強しないで単位をとったのですが、同窓会で皆さんの「苦労して卒業したお話」をうかがって、2コース目はきちんと研究をしたいと考えて、北海道の海岸の漂着物についての対策推進協議会の資金運用についての提案を卒業研究としてまとめました。指導教諭の鈴木先生にも大変お世話になりました。もう一度卒業研究をするつもりでしたが、大学院進学を決め、現在は大学院で「北海道の海岸漂流漂着物の処理における金銭の流れ」についての研究を始めましたが、なかなか難しく躓きながら進めております。



第7回文化祭開催される

平成27年10月6日(火)から10月11日(日)まで放送大学北海道学習センター5・6階で開催されました。

今回も、同窓会・学友会・学習センターで実行委員会を立ち上げ、実行委員長に小林祐吉(学友会前会長)が選ばれ、委員長を中心に数回の委員会を開催し、準備をし、開催しました。

展示部門

10月6日(火)から10月11日(日)まで
6階で開催

絵画・写真・ゴールドワーク・ブローチ、クッション、英語サークル活動の様子、地球守り隊の環境問題を提起するパネル等が展示され、皆さんの目を楽しませてくれました。また、車いすの学生が口で描いた絵を展示し、注目を集めていました。更に今年は初めて同窓会の活動写真を紹介しました。



バザー

10月10日土曜日 会場～5階 ロビー

皆さん!! 文化祭 バザーに沢山の品物をご寄附下さりありがとうございました。お陰様で収益金が42,352円となり過去最高となりました。多数の皆さんのご協力がありました。大学事務の方も協力品を提供して下さい、また、御嬢さんから「整理して下さい」と言われ「持ってきた」とバスタオルやタオルケット、毛布など多数持ち込まれた方もいました。受付当日、協力品を持ってきてくれた方や、サークルに来た方々と値付けをしていた時、前述の品を手にとって「亡き奥様がきちんと整理されていたのですね」との声があり、皆さん一様に自分もそうせねばと心に言い聞かせておりました。皆さんに声掛けし、多様な品物が届き、値付けをする、バザーで売る等の作業が楽しいと感じたのは私だけではなかったようです。今年も電話などでおねだりし、皆さんを当惑させな



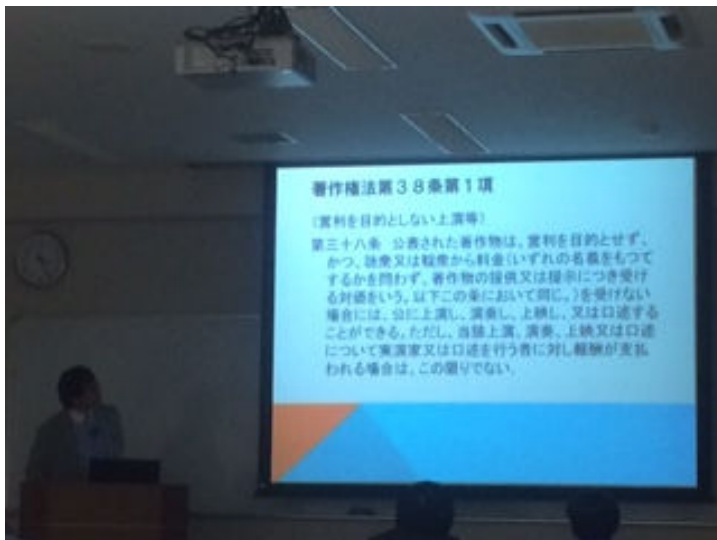
がらのバザーでしたが、文化祭の一翼を担えたのではと思います。

来年のためには皆さんに日頃から心がけて頂いて、文化祭用紙袋を目の付く所に置いて少しでも集めておいて欲しいです。バザーの収益金はある程度の金額になりましたら学生支援や母校のためにみんなで考えて使わせて頂く事になっています。これからも文化祭を、その中でもバザーを応援して下さい。そして文化祭を楽しみ学友同士の絆を深めではありませんか。

講演会・学芸会

北海道医療大学大学院教授志度晃一氏
「いきいきといきる」講演の後、北大落研
の落語と続き、サークル発表は道史サークル・パソコン学び隊、うたの会と続き学芸会は朗読、中川さん、手品、ギター演奏で幕を閉じました。





文化祭サークル発表

パソコン学び隊 湊 博喜

「パソコン学び隊」のサークル発表せよと重ねての要請があり、入院中の島田代表を差し置き、仲間の後押しもあってサークル発表をすることになりました。依頼側は我々がコンピュータグラフィックみたいなものを制作しているような錯覚があるに違いないと思いつつ、こんな活動レベルの発表では文化祭に汚点を残すがそれは依頼側の責任だよねと開き直って

やることに。とは云え、やはり大した中身はなく、冒頭に「発表させていただく機会を与えてくださりありがとうございます。」としたのがせめてもの抵抗。当初は音楽付きのプレゼンを予定していましたが、やはり著作権問題を解決することはできませんでした。

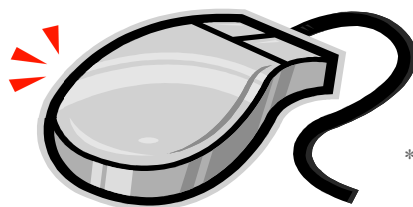
詳細は、<http://pcmanabitai.web.fc2.com/fc2-imageviewer/?aid=1&iid=2>

「パソコン学び隊！」

隊員大募集！

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。
皆様方のご入学を、心よりお待ちしております。
放送大学で学ぶ仲間として、厚く歓迎いたします。

☆
☆



☆



学習センター実習室にてパソコン実践練習をしております。
入門・初心者の方は、放送大学のパソコンのログイン方法、
放送大学のホームページの使い方から学んでいます。

活動日 月2回 土曜日 パソコン実践練習（パソコン実習室 13時から15時）

参加は、活動時に随時、もしくはメール、電話で受け付けております。

メールでのご連絡時には、「放送大学チラシ見て」という件名でお願いします。

メール：miyasabon@yahoo.co.jp 電話：080-5585-3416（島田）

まずは見学（無料）から！ 費用は年会費のみ 1000 円です。

道史学習サークルでの学び

「大学の窓」で紹介されて

～歴史から学ぶこと～

道史学習サークル 同窓会会員
榊原 峰子

2015年10月「大学の窓」で紹介していただいた道史学習サークルは、今年で結成11年目、2011年4月には100回例会を記念し、講演会を開催するなど着実に歩み続け、11月の例会で162回目となります。

テキストには「北海道の歴史」上(北海道新聞社発行)を用い、現在2冊目を学習しております。古代、中世と進み、近代前期へと移行したところです。北海道の歴史をまなぶにあたっては、基礎的知識ともなる興味深いところと思います。

「大学の窓」でご紹介いただいた見学会は、現在私たちが学習している「クナシリ・メナシの戦い」で、松前藩に忠節有功のあったアイヌの首長12名の英姿雄相が、蠣崎波響によって描かれた「夷酋列像」展です。二百数十年の時を経て北海道博物館に展示され、私たちも早速見学に行き、当時の蝦夷地支配者、松前藩主の権威のほどが間近に伝わってきた思いでした。



北海道で生まれ育った私は、北海道の名の語源となった「北加伊道」が、なぜ「北海道」になったのか、詳しくは知りませんでした。いろいろな説がある中で、アイヌ語で「自分たちが住んでいる場所」あるいは「この国に生まれたもの」を加伊(カイ)と呼ぶそうです。開拓判官松浦武四郎は、(カイ)の文字に北方の海に通じる「海」をあて、「北加伊道」という地名を考え

たということですが、しかし、現代の研究ではカイにはそのような意味はないという研究者もいます。真相のほどの判明は難しいと思いますがアイヌ語が、地域や時代によって変化してきた可能性のあることが充分考えられるところです。そして、東海道、東山道や西海道など五畿七道の呼び名にならう形で表記は「北海道」と決まったそうです。このようなこと一つ掘り起してみても、歴史を紐解いていく、まさに醍醐味です。

私は、歴史学習のひとつには、その時代に生きる人々の生活と文化をとらえ、市井の人々の暮らしの息づかい、そして遠い声に耳を傾けることのように思われる時があります。

新学期も始まり、新会員の方々にお会いするのが楽しみです。



東日本大震災

被災地の苦難と人々を忘れない!!

(福島県 浪江町、二葉町、相馬町を視察して)

北海道同窓会副会長 中根 恵美子

震災から4年目を迎えた被災地への視察バスツアーは福島市から出発し、二葉町、相馬町を通り浪江町、福島原発1号機が黙視できるところまで特別許可を貰って視察しました。ガイドはベントン先生こと半谷己輝己氏。彼は二葉町で生まれ育ったこともあり、今回の震災で放射能被害を受けている地元住民と中でも子供たちのために立ち上がった運動家です。道中あちこちにある汚染土壌の入った黒い袋の集団を横目で見ながら、地元人としての事情の説明があった。①震災が起こった時、被災地の自治体の首長が住民を置き去りにしていち早く他府県へ避難した事②有志で避難しようとした町長を引きとめ災害に対処するよう談判した事③国が行う復興の政策が机上のもので復興が進まない事④道路一本隔てただけで補助金0円と毎月一人10万円の補助と不満が続出している事。⑤地元村落衆の歴史的な紛争が復興行政の足を引っ張っている事等。



これらを解決するには「事情に詳しい地元」に権限を与えて復興にあたること」などを提言し続け、マスコミの報道では知らされていない情報をバスツアーとして発信していることに敬服しました。

報道されない、日頃目につかないから

と言って艱難辛苦の中にいる人たちを私達は忘れていないだろうか。放射能被害と地震・津波の被害があったつい四年前の事を私たちは自分の生活優先ですっかり平安だと思い込んでいるのではないだろうか。被災地が自分の住んでいる地域だったらと福島、岩手、宮城、青森、山形、栃木の地に思いを馳せ自然と涙と憤りが交差してくる。そこに住まないとツアーで1日見て回



り情報を得ても人々の辛さは分かりませんが、私達がいつまでも忘れない努力をし、この事実を風化させない事が大切だと思います。

北海道の放浪生や同窓生もこの震災を自分の事と受け止め、継続して応援して頂きたいと思います。北海道同窓会ではずっと浄財を集めています。同窓会費を振り込むときに被災地の応援もよろしくお願いします。

会費納入と新入会員募集のお知らせ

2015 年度の継続会員の方は、今年度の年会費 **1,000 円** を下記口座へお振り込みくださるようご協力をお願いします。

また、同窓生の中で同窓会に入会していない方がおられましたら、入会をおすすめくださるようお願いいたします。

入会を希望される方は、郵便振替用紙に「氏名、住所、電話番号、卒業年月、専攻」をご記入の上、入会金 **1,000 円**、年会費（初年度）**1,000 円** を下記口座へご送金ください。（次年度以降は年会費のみとなります。）また、**70 歳以上**の方は、**1 万円**で**終身会員**となります。

ゆうちょ口座名 放送大学北海道同窓会
口座番号 02740-0-37725

放送大学を宣伝してください！

皆さんの『口コミ』で、放送大学に入学して良かったと思うことを、大勢の方々に知らせてください。

入学等に関する問合せ先

放送大学北海道学習センター
TEL 011-736-6318

「会員の声・読者の声」募集中！

現在、会員や読者の皆さんの声を募集しております。皆さんの近況や会報へのご感想、ご意見がございましたら、是非、お寄せください。

（宛先） 〒060-0817

札幌市北区北 17 条西 8 丁目 北海道大学構内
放送大学北海道学習センター気付

放送大学北海道同窓会

学習センター事務室内ポストに直接投函可

FAX・Tel 兼用：011-642-2389 中根

新入会員のご紹介！！（敬称略・順不同）

2015 年9月卒業生

（ ）竹中 直樹 （心）遠藤 久

（生）長尾 久美子 （生）藤田 直人

（2015 年 9 月 27 日現在） 以上 4 名

〒・住所・電話番号などの変更のときは、必ず、ご連絡をお願いいたします。

編集後記

同窓会活動の大きな柱のひとつである会報の 27 号を発行しました。この時期は主に上期の行事を中心に掲載していますが、皆さんに会報でも学んでいただきたく、当会副会長の沖野さんの修士論文に紙面を割きました。また、誌上同窓会は次号にと考えています。

同窓会には会報の発行ほかにも、卒業記念の様子を「ひとこと集」に再現して卒業生にお渡しするという活動もあります。ただし「ひとこと集」の編集では、式参加者の話した内容を原稿にする仕事に結構苦労します。今回は留萌在住の同窓会幹事である大内須美子さんに、その仕事をお願いしましたが、簡潔にしかも正確にスピーチを原稿にしてくださいました。この会報でもその一部を紹介しています。

放送大学へは、それぞれの人がそれぞれの動機をもって入学をします。「卒業を祝う会」に出席して感じることは、何らかの事情で学業を断念せざるを得なかったひと、一念発起をして勉学をこころざしたひと、気軽な気持ちで入学したひと、一様に達成感と安堵感に満ちているということです。そうした光景をみる我々も、非常にすがすがしい気持ちにさせられます。ぜひ卒業を一里塚として、次のステージを目指していただきたいと思います。

今年は雪が早く降りました。この時期はラグビーのワールドカップも、野球の日本シリーズも、ノーベル賞とイグノーベル賞の発表も終わり、喧噪から静寂へと時間が移り変わります。図書館の暖房の効いた場所を占領して、忙しさにかまけて手にしていなかった資料を、じっくりと読み込むのに適した季節になりました。

（編集委員長）